

(1)事業の概要等

令和6年度 事務事業評価シート

事業番号		B1601-3		事務事業名			講座開催事業				事業期間			平成4年度		～	令和8年度以降				
実施計画事業																					
実施計画事業以外の事業		○		担当部			教育委員会事務局				担当課・担当係			北里市民センター公民館係							
事業の概要	小牧市まちづくり推進計画(R5年～R8年)	分野別計画編		基本 施策	16	展開 方向	1	事業・予算区分		一般事業		款	10	項	5	目	2	大	7	中	3
	根拠法令・個別計画	社会教育法、生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律、小牧市教育振興基本計画、小牧市教育大綱							対象 (何・誰を対象に)		市民企画講座：18歳以上の方 ゆうゆう・つつじ合同学級：市内在住在勤の60歳以上の方、市内在住在勤の18歳以上の女性の方										
	目的 (何のために)	豊かな人生を支える・生涯を通じて学ぶことができるまちを目指し、様々な学習の機会を提供することにより、生涯学習に取り組む市民を増やすとともに、市民が学びを通じてつながることを期待し、各種講座を開講し生涯学習活動の機会を設けて、これにより社会教育法に基づき設置されている公民館としての意義を守り、生涯学習の拠点としての役割を発展させ、住民の自主的な活動を育成し支援することを目指す。							内容 (どのような方法で)		【令和5年度の実施状況】 ・各種趣味等をテーマにした「市民企画講座」を開催 前期・後期にわけて前期3講座、後期3講座実施 (1講座につき2～6回開催) ・女性と高齢者を受講者とする「北里ゆうゆう・つつじ合同学級」を開催 学級数及び開催日数：1学級、延べ18回開催 ※開催場所：北里市民センター ※ゆうゆう・つつじ合同学級 講師は、外部から招いて運営・企画(テーマ調査等)は市職員が行った。。 ※市民企画講座 仕事や趣味などで培った知識や技能などを活かして市民が講座を企画・運営し、公募制により手を挙げられた市民から講師を選定した。 ○直接経費の内訳(令和5年度) 講師等謝礼(274千円)、消耗品、食糧費、駐車場使用料(16千円) ○直接経費の内訳(令和6年度) 講師等謝礼(370千円)、旅費(5千円)、消耗品(10千円)、食糧費(6千円)、駐車場使用料(5千円)										

(2)事業費

事業費	項目				単位等	R2	R3	R4	R5	R6
	直接経費	決算額	財源	一般財源	千円	181	177	145	112	
				国・県支出金		-	-	-	-	
				その他		94	163	180	178	
				計(A)		275	340	325	290	
			対前年比	%	—	123.64%	95.59%	89.23%		
		予算額	千円	540	403	401	370	370		
	人件費	正規職員		人	0.2	0.2	0.2	0.2		
		正規職員(平均賃金)		千円	1,497	1,497	1,497	1,497		
		その他職員		人	1	1	1	1		
		その他職員(時給×時間)		千円	1526	1524	1563	1563		
		計(B)		千円	3,023	3,021	3,060	3,060		
事業費合計(C=A+B)			千円	3,298	3,361	3,385	3,350			

(3)業績

展開方向における指標の推移	基本施策	16	指標名		単位	方向性	基準値	R5	R6	R7	R8
			1	市民講座受講者数	人	↗	1,629人	1,761人	—	—	
	展開方向	1	2								
			3								
指標	指標ほか				単位		R2	R3	R4	R5	R6
	成果指標	受講者数			人	目標	197	173	163	140	152
						実績	77	137	129	132	
		延べ受講者数			人	目標	1,330	1,224	1,164	1,761	1,761
						実績	426	685	797	774	
	活動指標	講座件数			件	目標	8	7	7	7	7
						実績	5	7	7	7	
		開催回数			回	目標	50	50	48	47	48
						実績	30	41	48	44	
	単位あたり事業費	受益者数(a)				人	77	137	129	132	
		受益者あたり事業費(=C/a)				円	42,833	24,534	26,241	25,380	

(4-1)事業の評価

事業の評価	事業の方向性	維 持(改 善)	事業のボリュームは現状規模で維持するものの、手法の改善をするもの								
	事業の達成状況と課題	○感染症対策に伴う定員減、講座の中止、回数の縮小などで各種目標値を下回る年度もあったが、R5年度は講座参加者アンケートを参考に市民が興味、関心のある講座を実施したことで前年度同様、前・後期合わせて市民企画講座6講座を開催することができ目標に達することができた。 ○市民企画講座は市民が企画した講座をこまなびサロンへ登録し、その中から公民館をはじめ4施設で選ぶようになっている。毎回、同じ講師による同じ企画が登録されており、マンネリ化しているため市民にとって目新しさにかけると思われる。新規講師の開拓が必要だが講師料が基準より安いいため、登録する講師が増えないので見直しが必要と思われる。 ○近年、施設を利用して事業を行う他課が増加してきており、既存の施設利用団体から「施設を利用できない、駐車場に車が止められない」という苦情が発生している。		今後の実施内容・今後の改善内容	公民館としての意義を守りつつ、生涯学習の拠点としての役割を発展させ、やがては住民の自主的な活動を育成し支援していくために今後も事業を継続していく必要がある。 受講者数の増加を図るため土曜・日曜日に講座を開催するとともに、活動サークルとの協働講座などを行うなど検討する必要がある。						
	改善の有無	有				千円	節		細節		細々節
	これまでの改善内容	講師用飲み物の見直しによるもの。 (ペットボトルから紙パックへ)		事務事業評価による額							

(4-2)事業継続の可能性(事業のスクラップ可能性)

事業分析	評価項目		評価結果	評価結果を判断した理由
	妥当性	行政が公費を投入して実施することが妥当か(対象を見直すことはできないか)	妥当である	社会教育法に基づき設置されている公民館としての意義を守り、生涯学習の拠点としての役割を発展させ、住民の自主的な活動を育成し支援していくため、今後も事業を継続していく必要がある。 また、民間事業者による講座事業は需給に応じ講座内容に偏りが発生するため、民間事業者で行われにくい社会的課題及び地域課題分野の講座や生涯学習団体の育成・地域への学習成果還元を行政により推進する必要がある。
	有効性	廃止・休止した場合に住民が影響を受けるか	多くの住民に影響がある	3市民センター及びこまき市民文化財団が同じ事業を運営し、本市の生涯学習における課題解決に取り組んでいるため、多くの市民に影響がでる。
	効率性	サービスを低下させずに総事業費を削減できないか	現状のままでよい	令和5年度10月分から市民窓口課業務及び支所窓口業務契約と市民センター(公民館)窓口業務契約を一本化し、複数事業にわたっての事業削減・業務効率化を図っているので、現状のままとしたい。
		外部への委託や類似事業との統合により事業費の削減の余地はないか	外部委託や統合により削減の余地がある	本市の生涯学習事業のうち大半がこまき市民文化財団で事業運営しているため、各市民センターへ移管することで、事業費削減の余地はある。
	公平性	受益者負担は適正か	適正である	各講座でばらつきがあるものの、出前講座及び包括連携協定の講座を適用することにより、受益者負担は適正である。